

次世代活躍推進特別委員会行政視察概要

1 視察月日 令和8年7月21日（火）～7月22日（水）

2 視察先及び視察事項

（1）鳥取県鳥取市

ア 鳥取市における休日の部活動の地域展開について

イ とっとり若者地方創生会議の活動について

（2）鳥取県

とっとり若者活躍局の取組について

3 視察委員

委 員	木 内 秀 一
同	行 田 朝 仁

視察概要

1 視察先

鳥取県鳥取市

2 視察月日

7月21日（火）

3 対応者

議会事務局長（挨拶）

教育委員会事務局次長兼学校教育課長（説明）

4 視察内容

（1）鳥取市における休日の部活動の地域展開について

鳥取市では、令和3年2月に部活動改革委員会が発足して以降、段階的に休日の部活動の地域移行が進められている。令和8年度からはモデル事業として「鳥取市休日クラブ」が本格的に稼働し、令和9年度には休日の部活動を全て地域クラブへ移行する完全展開を目指している。

こうした取組の中核を担うのが「鳥取市休日クラブ」である。同クラブは、学校からの推薦を受けて市教育委員会が認定するもので、学校施設や活動内容は維持しながら、休日の指導を地域の民間人材へ移行する仕組みとなっている。各学校の部活動改革協議会での協議及び推薦を経て、教育委員会が認定したクラブを「鳥取市休日クラブ」と総称している。学校の部活動を廃止するのではなく、学校施設をそのまま活用しながら、子供たちが従来と変わらない環境で活動を継続できる制度となっている。

また、指導者への謝金は市教育委員会が負担し、保険加入や認定制度を設けて安全性を確保した上で、学校のコーディネーターが中心となって地域のネットワークから人材発掘を継続して行っている。

（2）とっとり若者地方創生会議の活動について

とっとり若者地方創生会議は、鳥取市の地方創生の中心となる若者自身が、定住促進やまちのにぎわいづくりに向けた施策を調査・研究し、若者の視点を市政へ反映させることを目的として創設された組織である。平成28年の発足以来11年目となる令和8年度も、市内の学生や社会人に加え、市外のメンバーも交えて様々な活動を展開している。

主な取組として、市外への転出が多い高校生に対して、まちの現状や課題への理解を深めてもらうためのワークショップの開催やインバウンド向けの新しい鳥取土産などをテーマとした学生主導の事業が実施されている。

また、大学との交流や関係人口創出の検討を行っている。その一環として、明治大学などの学生派遣プログラムの受け入れやまち歩きを通じた交流、地域外在住者との継続的な関係構築手法の検討などを実施している。さらに、インスタグラムを活用した鳥取市の魅力発信や1年間の活動を集約した成果発表会を開催するとともに、鳥取市長へ直接提言書も提出している。

(3) 質疑概要

Q 令和9年度には休日の部活動を全て地域クラブへ移行する方針を決定するに至った経緯、きっかけは何か。

A 市長の強い思いによるものである。

Q とっとり若者地方創生会議の設立背景及び目的を教えてください。

A 次代を担う若者の意見や発想を生かすことを背景に、若者のさらなる深化を図ることを目的としている。

Q 県・市との関係性や連携体制について教えてください。

A 県の事業である「とっとり若者活躍局」と活動内容に親和性があることから、県担当者から連携を模索したいとの申し出があり、意見交換を行った経緯はあるが、現時点では具体的な連携の実現には至っていない。今後の可能性については、引き続き注視していくこととしている。

(4) 委員所見

鳥取市における休日の部活動の地域展開については、全国的な課題となっている部活動改革に対し、様々な対応を図りながらも、先進的かつ踏み込んだ取組が進められている点が大変参考になった。一方、地域移行に係る国の補助制度は6年間で終了するため、補助終了後の謝金や指導者確保等については全国的な課題と考える。

また、とっとり若者地方創生会議の活動については、市職員との連携が素晴らしく、形式的なものでなく、事業が予算化もされて展開されており、とても参考になる取組であると感じた。



(会議室にて説明聴取及び質疑)

視察概要

1 視察先
鳥取県

2 視察月日
7月22日（水）

3 対応者
政策戦略局協働参画課長（挨拶）
政策戦略局協働参画課長補佐（説明）

4 視察内容

（１）とっとり若者活躍局の取組について

とっとり若者活躍局は、鳥取県在住の高校生から30代の若者が核となって地域課題の解決や魅力発信に取り組むプロジェクトチームである。

具体的な取組内容は、月1回の定例会議等を通じて自由な発想で地域活性化イベントの企画や県への政策提案を実施している。令和5年に活動が開始され、チームへの応募者は年々増加しており、県内高校生を中心に現在は40名を超えるメンバーが在籍している。

音楽と食をテーマにした「Tottori Colorful FES」（通称：トリカラ）などの若者主体イベントの開催や、鳥取砂丘のテーマパーク化、商店街の活性化企画など、ユニークな事業活動を展開し、若者自身の視点から地域の課題を整理し、鳥取県に対して直接政策の提言を行っている。

（２）質疑概要

Q 予算規模について教えてほしい。

A 予算規模は30万円程度であり、大規模プロジェクトの場合は100万円程度となっている。

Q 鳥取市内と鳥取市外のメンバー比率について教えてほしい。

A 市内からの参加が多い実態はあるが、倉吉市（県中部）や米子市（県西部）から参加しているメンバーもいる。

Q 令和7年度の政策提案の実績について教えてほしい。

A 令和7年度は11件の提案が採択され、令和8年度予算に反映され

ている。

(3) 委員所見

若者自らの視点で地域課題を整理し、鳥取県に対して直接政策提言を行うなど、少子化が進行する中であっても、次世代活躍の推進に向けて様々なチャレンジを続けている点は、大変参考になった。また、若者同士が横のつながりを形成するとともに、自らが暮らす地域づくりの担い手として主体的に活躍している点が印象的であった。学生と地域、行政をつなぐコーディネート機能が十分に発揮されており、若者の主体的な活動を支える仕組みづくりの重要性を感じた。



(会議室にて説明聴取及び質疑)